

- 18 NPO 法人びーのびーの 2003 『おやこの広場 びーのびーの』ミネルヴァ書房
- 19 会話集(5ヶ国語) 1995 横浜市福祉局児童福祉部保育第一課・保育第二課
- 20 八尾市・多文化共生のための対話支援カード 2001 八尾市保健福祉部保育施設課
- 21 16ヶ国語診察補助表 2002 NPO 法人 AMDA 国際医療情報センター

地域における子育て支援ネットワーク構築に関する研究

分担研究報告書

子育て情報誌の作成とその活用効果に関する研究

分担研究者 星 且二（東京都立大学都市研究所）

研究協力者 中野和幸（川崎市・多摩保健所）

研究協力者 渡部月子（神奈川県立大学）

【研究要旨】行政と NPO 法人との協働によって作成された子育て情報誌は、利用者側から一定の評価を得ることができたと考えられる。介入研究の結果、「子育て BOOK」の活用の有無が、育児情報を得るために利用する手段や、母親観に影響を与えていることが確認された。

「子育て BOOK」を受け取らなかったグループは、育児に関する情報源としての「クチコミ」の比重が高く、「友人と真剣に話し合う」「自発的に友人に話しかけていく」といった対人的な積極性が高いことが確認された。

一方、「子育て BOOK」を受け取ったグループは、母親になることを「人間的に成長するチャンスである」ととらえる傾向が強い一方で、対人的な積極性が弱まるとともに、子育てに関する情報源も「クチコミ」以外の要素への比重が高まる傾向を示した。その結果、「情報が多くて混乱する」傾向にあることも確認された。これは、大量の情報を提供しただけでは不十分で、情報提供後の対人的・個別的なサポートの必要性を示唆しているものと考えられる。

見出語：子育て情報誌 情報源 子育て不安

1. 研究目的

本研究の目的は、利用者の視点に立った子育て情報誌を作成し、その活用効果を明確にすることである。子育て情報誌は、地域で子育て支援に取り組んでいる NPO 法人と行政とが協働して作成したものを活用した。

2. 調査対象と研究方法と情報誌

2-1. 調査対象

本研究の調査対象は、川崎市多摩区在住の乳児を持つ母親である。川崎市多摩区は、1972 年 4 月、川崎市の政令指定都市移行に伴って誕生し、10 年後の 1982 年 7 月には、多摩区の北西部が麻生区として分区され現在に至っている。

かつて「多摩川梨」の栽培で知られるように農村地帯としての景観を多く残していたが、小田急線など都心への交通手段などに恵まれていることから急速な宅地開発などが進み、平成14年6月には人口が20万人を超えたばかりでなく、現在も漸増が続いている。区の北部には多摩川が流れ、南部には多摩丘陵がひろがるなど、都心から近いにもかかわらず自然環境が残されていることも転入者が多い理由のひとつであると考えられる。

表 2-1 人口 1,000 人あたりの年間婚姻数・離婚数・出生数・死亡数^{*1}

	婚姻 (件)	離婚 (件)	出生 (人)	死亡 (人)
川崎市多摩区	9.0	2.3	11.0	4.8
川崎市全体	8.9	2.5	10.8	5.6
全国平均	6.4	2.3	9.3	7.7

(平成13年)

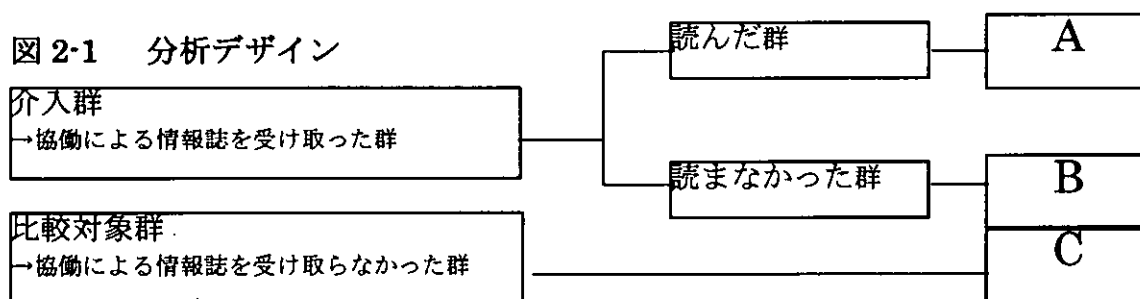
人口 1,000 人あたりの婚姻数・出生数を見ると、全国平均を大幅に上回っており、いわゆる「ニューファミリー層」が比較的多い地域であることがわかる。

2-2.分析デザインと研究方法

比較を行う群としては、「子育て BOOK」を受け取って読んだグループ (A)、受け取ったが読まなかったグループ (B)、受け取っていないグループ (C) の三種類がある。このうち、情報誌を利用した「A 群」と利用しなかった「B・C 群」との間で、子育てに関する意識にどのような違いがみられるかについての比較を行った。

分析方法では、SPSS 11.0J と AMOS 5 の 2 種類のアプリケーションソフトを用いて、育児意識に関するアンケートデータの解析を行った。

図 2-1 分析デザイン



*1 厚生労働省、「2002年人口動態統計の年間推計」、川崎市「川崎市統計書」による

表 2-1 実施スケジュール

時期		情報誌	調査
2002年	10月	契約	
	11～12月	企画・取材	
2003年	1月		
	2月	編集	
	3月	校正・レイアウト入れ	
	4月	入校・印刷	
	5月～	一般配布開始	調査②介入群に対するアンケート
9月			

2-3.子育て情報誌

NPO 法人と行政とが協働して作成した子育て情報誌（以下「子育て BOOK」）の活用効果を検証するために、従来からある官製の子育て情報誌を受け取っただけの母親（比較対照群）と、「子育て BOOK」を受け取り活用した母親（介入群）に対してそれぞれアンケート調査を実施し、子育てに関する意識がどのように変動したかを、自記式によるアンケート調査によって測定した。

(1) 子育て情報誌「子育て BOOK」の作成について

2002年10月にNPO 法人と川崎市の間で情報誌の作成に関する契約を締結した、企画・取材・編集・デザインにおよそ5か月間を要し、2004年4月に印刷・製本が完了した。初版として1万部を作成し、2004年5月から一般配布を開始した。

(2) 子育て BOOK の配布について

「子育て BOOK」の配布対象となったのは、乳幼児のいる世帯や妊婦のいる世帯である。対象者に速やかに行き渡るよう①母子健康手帳の交付時、②出生届受理時、③乳幼児健診受診時などの機会を通して積極的に配布を行うとともに、保育園・図書館・市民館などの公的施設でも受け取ることが可能となるよう態勢を整え、あわせて配布開始についての広報を行った。

(3) 育児意識に関する調査の実施について

育児に関する意識の変動を測定するために調査票の配布を行った。調査票は保健福祉センターで実施する4か月乳幼児健康診査の際に配布し、その2日後

の BCG 接種を利用して回収した。3 回の配布のうち①多摩区子育て BOOK 配布直前の 4 月 24 日に配布された調査票が「比較対照群」に対するものであり、②配布開始後約 4 か月を経過した 9 月 9 日と 9 月 16 日に配布された調査票が、「介入群」に対するものである。

(4) 調査票について

匿名による自記式調査票 (A3 版 1 枚両面) を作成し使用した。表面は子育てに関する意識について、裏面は「子育て BOOK」への意見・感想についての設問として構成した。

表面は母親のプロフィール (年齢・家族構成・子どもの数・多摩区在住年数・仕事の有無など) のほか、①両親学級の受講状況、②子育て BOOK 活用の有無、③育児に関する情報源、④育児に関する困りごと、⑤自分自身に対する肯定感、⑥母親であることを通じて自分自身にどのような変化・成長がもたらされると思うか (母親観) について尋ねた。設問の作成にあたっては、大日向 (1988) による「母性意識尺度」と佐藤・菅原・戸田・島・北村 (1984) による「育児ストレス尺度 (生後 6 か月用)」を参考にした。

裏面は、①「子育て BOOK」の良かった点・悪かった点、②改訂版で新たに取り上げてほしいこと、③意見記入欄の 3 項目からなっており、改訂版作成時の参考とした。

3. 調査結果

調査結果を、3-1. 調査票の配布と回答の状況について、3-2. 子育て BOOK に関する基本的事項について、3-3. 設問に対する回答の状況について、3-4. 各要因ごとの比較に分けて報告する。

3-1. 調査票の配布と回答の状況について

合計 162 人に対して調査票を配布し、118 通の有効回答があり、回答率は、72.8%であった。回答者の属性は、表 3-2 に示した。

表 3-1. 調査票の配布と回答率

	情報誌配布前	情報誌配布後		合計
	4月22日	9月9日	9月16日	
配布数 (a)	46	55	61	162
回答数 (b)	35	36	47	118
回答率 (b/a)	76.1%	65.5%	77.0%	72.8%

表 3-2. 回答者の属性

	情報誌配布前	情報誌配布後		合計 (n=118)
	4月22日 (n=35)	9月9日 (n=36)	9月16日 (n=47)	
母の年齢 (歳)	30.1 ± 3.6	30.3 ± 3.7	31.0 ± 3.7	30.5 ± 3.7
多摩区居住歴 (年)	5.0 ± 7.4	9.3 ± 12.2	5.7 ± 7.9	6.6 ± 9.4
子どもの数 (人)	1.37 ± 0.60	1.28 ± 0.51	1.38 ± 0.57	1.35 ± 0.56
世帯の人数 (人)	3.60 ± 1.24	3.36 ± 0.76	3.68 ± 0.91	3.56 ± 0.98

回答者の平均年齢は 30.5 歳、川崎市多摩区での平均居住年数は 6.6 年、子どもの数は 1.35 人、回答者を含めた世帯の平均人数は 3.56 人となっている。

子どもの数と世帯の人数を差し引いた数字が 2.21 であることから、回答者の大半が核家族世帯に属しているものと考えられる。

3-2. 子育て BOOK に関する基本的事項について

(ア) 所持の状況

配布開始後 4 か月が経過した 9 月の時点においても、2 割弱が「受け取っていない」と答えている。

表 3-3. 子育て BOOK 所持の状況

	情報誌配布前 (4月22日)	情報誌配布後 (9月9日・9月16日)	
	受け取っていない	受け取っていない	受け取った
受け取ったか?	35	15	69

(イ) 読後感について

前項で「受け取った」と答えた 69 名に対し、読んだかどうかと、読み方の程度について尋ねた。情報誌を受け取った人の 9 割が「読んだ」と答え、読み方についても 4 人に 1 人が「じっくり読んだ」と回答している。

情報誌作成の目標の一つである「とにかく目を通してもらう」という狙いはおおむね成功したといえるであろう。

表 3-4. 読み方の「程度」について

	じっくり読んだ	だいたい目を通した	関心のあるところだけ拾い読みした	ざっと目を通した	まだ読んでいない	計
読んだか	16 (23.2%)	27 (39.1%)	14 (20.3%)	5 (7.2%)	7 (10.1%)	69

表 3-5. 内容について

	役立った	まあまあ役立った	どちらともいえない	あまり役に立たなかった	役に立たなかった	計
内容は役立ったか	27 (43.5%)	20 (32.3%)	13 (21.0%)	2 (3.2%)	0 (0.0%)	62

表 3-6. 難易度について

	易しすぎた	やや易しかった	ちょうど良かった	やや難しかった	難しかった	計
難易度は適切だったか	1 (1.6%)	8 (12.9%)	53 (85.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	62

前項で「まだ読んでいない」と答えた 7 名を除く 62 名に対して、役立ったかどうかと、難易度について尋ねた。内容については、75 %の人が「役立った・まあまあ役立った」と答えている一方で、2 割を超える人が「どちらともいえない」としている。難易度については「ちょうど良かった」と答えた人が 85 %を占めたる「利用者の視点で必要な情報をわかりやすく」というポイントを最優先して編集を行ったことが、一定の成果をあげているものと考えられる。

3-3. 設問に対する回答の状況について

ここでは、設問グループごとに、全体の回答状況について検討を行う。

(ア) 設問グループ①「子育てに関する情報をどこから得ているか」について

「クチコミ」「新聞・雑誌・情報誌」については、回答者の9割が「あてはまる・ややあてはまる」と答えている。一方、「ミニコミ誌」や「学習会・講習会」を情報源と答えた人は2割前後に過ぎない。

(イ) 設問グループ②「子育てで困ること」について

全体を通じて「あてはまる・ややあてはまる」の回答が少ない傾向がみられた。その中で比較的多かったのは「寝付きが良くない」「睡眠時間がまちまち」「情報が多くて混乱」の3項目であり、2割前後の人が「あてはまる・ややあてはまる」と回答している。

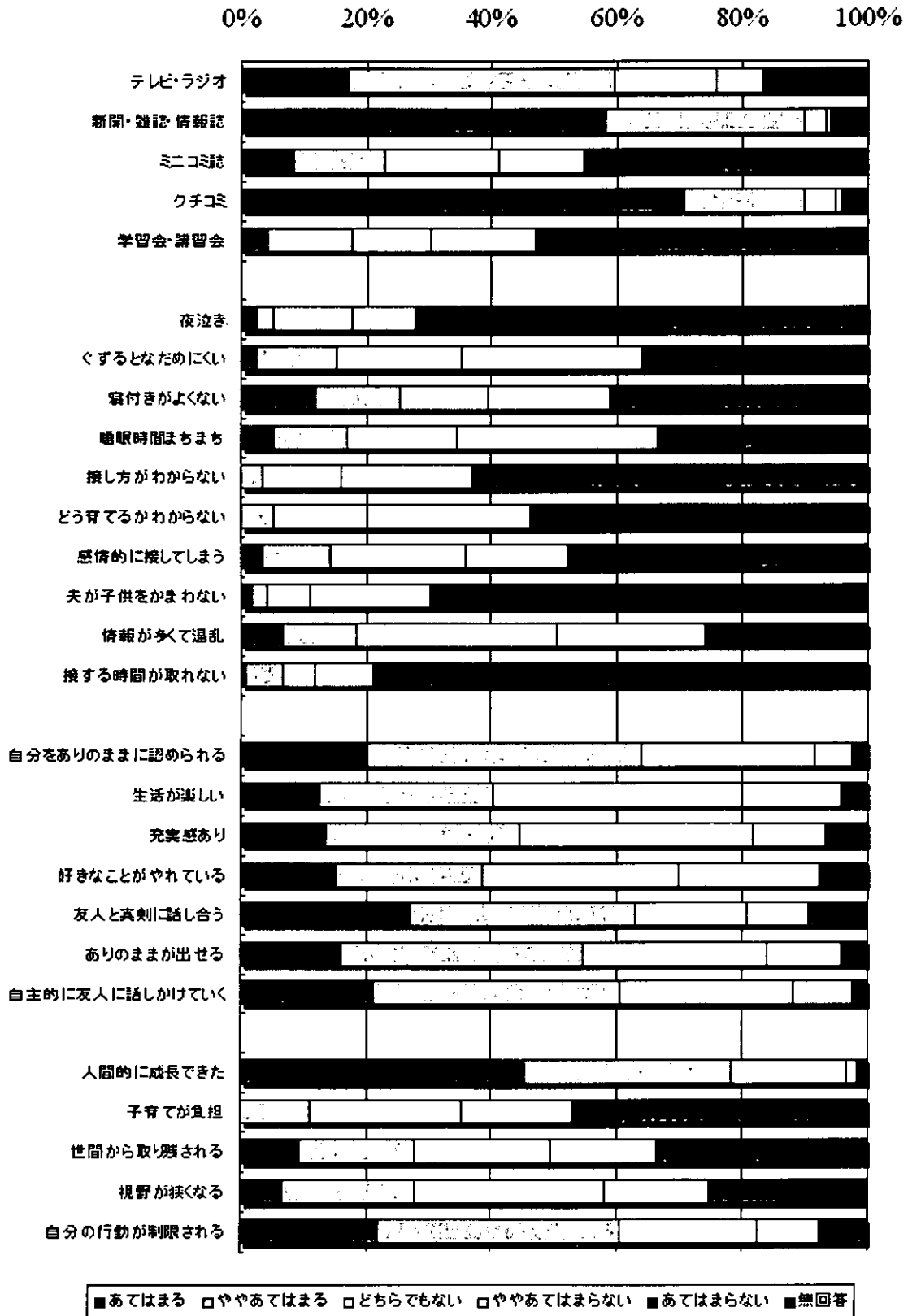
(ウ) 設問グループ③「自己肯定感」について

設問全体を通して「あてはまる・ややあてはまる」と答えている人が4～6割となっている一方で、2割前後の人が「あてはまらない・ややあてはまらない」と回答しておりバラツキが見られる。また、対人関係に関する3つの設問「友人と真剣に話し合う」「他人の前でありのままが出せる」「自発的に友人に話しかけていく」については6割前後の人が「あてはまる・ややあてはまる」と答えているのに対して、自分自身の生活に対するイメージを尋ねている3つの設問「生活が楽しい」「充実感あり」「好きなことがやれている」について「あてはまる・ややあてはまる」と答えた人は4割前後にとどまっており、傾向に相違が見られる。

(エ) 設問グループ④「自身の母親観」について

5つある設問のうちの3つが肯定的なイメージの設問であり、残る2つがと否定的なイメージの設問である。8割近い人が「母親になったことで人間的に成長できた」とする一方で、6割が「自分の行動が制限される」、3割弱が「世間から取り残される」「視野が狭くなる」と答えている。また、「子育てが負担」と答えた人は1割に過ぎない。母親観に対する設問を通じて、子育てが負担であるとする回答が少ない傾向が見られるのは、回答者の7割が1人目の出産であることや、4か月児健康診査の時点で行われた調査であることが大きく影響しているものと考えられる。

図 3-1 回答の状況



3-4. 各要因ごとの比較

5つの要因、すなわち「母親の年齢階層」「多摩区での居住歴」「子供の数（初産か経産か）」「母親の就労の有無」「子育てBOOK活用の有無」ごとに、設問に対する解答に較差がみられたかどうかを比較し、カイ二乗検定を用いて有意差を検定した。

このうち「子育てBOOK活用の有無」における比較が、本稿の目的のひとつである「協働による情報誌づくりがもたらした効果」の検証となる。

(ア) 母親の年齢階層 (20歳代⇔30歳代)

30歳代の母親の方が「自分をありのままに認めることができる (p=0.034)」と答える傾向がより強い。自己肯定感に関する設問の多くが、30歳代の母親の自己肯定感が20歳の母親のそれを上回る傾向があることを示している。

(イ) 多摩区での居住歴 (3年未満⇔3年以上)

居住歴が3年を超えるグループの方が、「子どもと接する時間がとれない (p=0.008)」と答える傾向が強かった。しかし、「(やや)あてはまる」と回答した8人のうちの7人が、2人以上の子どもを持つことが判明していることから、居住歴が長いことの背後に子どもの数の違いがあることへの留意が必要である。

(ウ) 子供の数 (1人目⇔2人目以上)

複数の項目で顕著な傾向が見られた。2人以上の子どもを持つ母親には「感情的に接してしまう (p=0.003)」「夫が子どもをかまわない (p=0.001)」「子どもと接する時間がとれない (p=0.000)」と答える傾向が強く、精神的・時間的なゆとりのなさを感じていることを示している。逆に、初産の母親には「充実感がある・精神的に楽である (p=0.013)」「友達と真剣に話し合う (p=0.048)」「ありのままの自分を出せる (p=0.019)」と答える傾向があり、自己肯定感が強いことを示している。しかし、この調査が4か月児健康診査という子育てがはじまったばかりの時期に行われたことには留意が必要である。この調査が別の時期に実施されていたとしたら、また違った結果が示された可能性は否定できない。

(エ) 母親の就労の有無 (就労なし⇔就労あり)

顕著な傾向が見られた。仕事を持つ母親には「自分の好きなことがやれている (p=0.004)」「ありのままの自分を出せる (p=0.044)」と答える傾向が強いことに加えて、仕事を持たない母親の3人に1人が「関心が子供にばかり向いて視野が狭くなる」の設問においては、「あてはまる・ややあてはまる」と答えているのに対して、仕事を持つ母親でそう答えた人は皆無であった (p=0.001)。

家庭の他に「職場」という別のチャンネルを持っていることが、自己肯定感や育児に対する肯定感を高める結果をもたらしたものと考えられる。ただし、4か月児健康診査の時点では働く母親の大半が育児休暇を取得中であると考えられることから、時間的・精神的にリラックスした状態が回答に影響を及ぼした可能性があることも否定できない。

(オ) 子育て BOOK 活用の有無

いくつかの興味深い傾向がみられた。子育て BOOK を活用したグループでは「母親になったことで人間的に成長できた (p=0.043)」と回答する傾向が強いことをはじめ、全般に母親であることに対して肯定的なイメージを持つ傾向が強かった。一方、子育て BOOK を活用しないグループでは「友達と真剣に話し合う (p=0.038)」「自発的に友人に話しかけていく (p=0.018)」と答える傾向が強く、対人面でより積極的であることを示した。子育ての情報源として「クチコミ (p=0.020)」をあげた人が多いことも、この傾向を裏付けるものといえよう。

また、子育て BOOK を活用したグループは「クチコミ」以外の情報源、すなわち「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌・情報誌」「ミニコミ誌」「学習会・講習会」の利用において子育て BOOK を活用しないグループを上回っており、このグループが、情報を人からではなくマスメディアや学習会から入手しようとする傾向が強いことを示している。子育て BOOK 活用グループには「情報が多くて混乱する (p=0.011)」と答えている人が多いことも、この事実の裏付であるといえるだろう。

表 3-7 要因ごとの比較① 母親の年齢階層による較差

			20歳代 (n=44)		30歳以上 (n=74)		有意確 率
			実数	比率	実数	比率	
要 因 間 の 比 較	多摩区での生活 歴	3年以上	19	43.2%	47	62.7%	0.039*
	初産か経産か	2人以上	9	20.5%	28	37.3%	0.055
	母親の就労	就労あり	8	18.6%	15	20.3%	0.827
	子育て BOOK 活 用	活用あり	23	52.3%	34	45.3%	0.464
① 子 育 て 情 報 源	テレビ・ラジオ		30	68.2%	41	55.4%	0.170
	新聞・雑誌・情報誌		39	88.6%	68	91.9%	0.556
	ミニコミ誌		14	31.8%	13	17.6%	0.075
	クチコミ		40	90.9%	67	90.5%	0.947
	学習会・講習会		5	11.4%	16	21.6%	0.159
② 子 育 て で 困 る こ と	夜泣きがひどい		3	6.8%	3	4.1%	0.509
	ぐずるとなだめにくい		4	9.1%	13	17.6%	0.205
	寝付きがよくない		11	25.0%	19	25.7%	0.935
	睡眠時間まちまち		10	22.7%	10	13.5%	0.197
	どう接すればよいのかわから ない		2	4.5%	2	2.7%	0.593
	どう育てるかわからない		1	2.3%	5	6.8%	0.284
	感情的に接してしまう		3	6.8%	13	17.6%	0.099
	夫が子供をかまわない		4	9.3%	1	1.4%	0.040*
	情報が多くて混乱する		8	18.2%	14	18.9%	0.921
	子どもと接する時間が取 れない		1	2.3%	7	9.5%	0.133
③ 自 己 肯 定	自分をありのままに認めること ができる		23	52.3%	53	71.6%	0.034*
	生活がすごく楽しいと感じる		18	40.9%	30	40.5%	0.969
	充実感がある・精神的に楽で		19	43.2%	34	45.9%	0.770

感ある	自分の好きなことがやれている	15	34.1%	31	41.9%	0.401
	友達と真剣に話し合う	27	62.8%	47	63.5%	0.938
	ありのままの自分を出せる	23	52.3%	42	56.8%	0.636
	自発的に友人に話しかけていく	23	52.3%	48	64.9%	0.177
④ 母親観	母親になったことで人間的に成長できた	37	84.1%	55	74.3%	0.216
	子育てが負担に感じられる	5	11.4%	8	10.8%	0.926
	育児に携わっていると世間から取り残される	12	27.3%	21	28.4%	0.897
	関心が子どもにばかり向いて視野が狭くなる	13	29.5%	20	27.4%	0.802
	母親であることで自分の行動が制限される	23	52.3%	48	64.9%	0.177

*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

表 3-8 要因ごとの比較② 多摩区での生活歴による較差

			3年未満 (n=65)		3年以上 (n=53)		有意確 率
			実数	比率	実数	比率	
要 因 間 の 比 較	母親の年齢階層	30歳代	28	52.8%	47	71.2%	0.039*
	初産か経産か	2人以上	7	13.2%	30	45.5%	0.000***
	母親の就労	就労あり	11	20.8%	12	18.8%	0.786
	子育て BOOK 活用	活用あり	24	45.3%	33	50.0%	0.609
① 子 育 て 情 報 源	テレビ・ラジオ		32	60.4%	39	60.0%	0.967
	新聞・雑誌・情報誌		48	90.6%	59	90.8%	0.970
	ミニコミ誌		13	24.5%	14	21.5%	0.701
	クチコミ		51	96.2%	56	86.2%	0.061
	学習会・講習会		11	20.8%	10	15.4%	0.448
② 子 育 て で 困 る こ と	夜泣きがひどい		2	3.8%	4	6.2%	0.558
	ぐずるとなだめにくい		4	7.5%	13	20.0%	0.055
	寝付きがよくない		13	24.5%	17	26.2%	0.840
	睡眠時間まちまち		12	22.6%	8	12.3%	0.137
	どう接すればよいのかわからない		2	3.8%	2	3.1%	0.835
	どう育てるかわからない		2	3.8%	4	6.2%	0.558
	感情的に接してしまう		5	9.4%	11	16.9%	0.237
	夫が子供をかまわない		2	3.8%	3	4.6%	0.838
	情報が多くて混乱する		8	15.1%	14	21.5%	0.371
	子どもと接する時間が取れない		0	0.0%	8	12.3%	0.008**
③ 自 己 肯 定 感	自分をありのままに認めることができる		34	64.2%	42	64.6%	0.958
	生活がすごく楽しいと感じる		17	32.1%	31	47.7%	0.086
	充実感がある・精神的に楽である		24	45.3%	29	44.6%	0.942
	自分の好きなことがやれ		22	41.5%	24	36.9%	0.611

	ている					
	友達と真剣に話し合う	35	66.0%	39	60.9%	0.569
	ありのままの自分を出せる	32	60.4%	33	50.8%	0.297
	自発的に友人に話しかけていく	32	60.4%	39	60.0%	0.967
④ 母 親 観	母親になったことで人間的に成長できた	38	71.7%	54	83.1%	0.138
	子育てが負担に感じられる	6	11.3%	7	10.8%	0.924
	育児に携わっていると世間から取り残される	12	22.6%	21	32.3%	0.245
	関心が子どもにばかり向いて視野が狭くなる	11	20.8%	22	34.4%	0.103
	母親であることで自分の行動が制限される	30	56.6%	41	63.1%	0.475

*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

表 3-9 要因ごとの比較③ 初産か経産かによる較差

			1 人 目 (n=82)		2人以上 (n=36)		有 意 確 率
			実数	比率	実数	比率	
要 因 間 の 比 較	母親の年齢階層	30 歳代	47	57.3%	28	75.7%	0.055
	多摩区での生活 歴	3 年以 上	36	43.9%	30	81.1%	0.000***
	母親の就労	就 労 あ り	22	27.5%	1	2.7%	0.002**
	子育て BOOK 活 用	活用あ り	43	52.4%	14	37.8%	0.140
① 子 育 て 情 報 源	テレビ・ラジオ		52	63.4%	19	52.8%	0.277
	新聞・雑誌・情報誌		76	92.7%	31	86.1%	0.258
	ミニコミ誌		19	23.2%	8	22.2%	0.910
	クチコミ		75	91.5%	32	88.9%	0.658
	学習会・講習会		18	22.0%	3	8.3%	0.075
② 子 育 て で 困 る こ と	夜泣きがひどい		5	6.1%	1	2.8%	0.450
	ぐずるとなだめにくい		12	14.6%	5	13.9%	0.915
	寝付きがよくない		22	26.8%	8	22.2%	0.597
	睡眠時間まちまち		15	18.3%	5	13.9%	0.557
	どう接すればよいのかわから ない		2	2.4%	2	5.6%	0.389
	どう育てるかわからない		4	4.9%	2	5.6%	0.877
	感情的に接してしまう		6	7.3%	10	27.8%	0.003**
	夫が子供をかまわない		0	0.0%	5	13.9%	0.001***
	情報が多くて混乱する		17	20.7%	5	13.9%	0.380
③ 自 己 肯 定 感	子どもと接する時間が取 れない		1	1.2%	7	19.4%	0.000***
	自分をありのままに認めること ができる		52	63.4%	24	66.7%	0.734
	生活がすごく楽しいと感 じる		34	41.5%	14	38.9%	0.793
充実感がある・精神的に楽で ある		43	52.4%	10	27.8%	0.013*	

	自分の好きなことがやれている	35	42.7%	11	30.6%	0.214
	友達と真剣に話し合う	56	69.1%	18	50.0%	0.048*
	ありのままの自分を出せる	51	62.2%	14	38.9%	0.019*
	自発的に友人に話しかけていく	52	63.4%	19	52.8%	0.277
④ 母 親 観	母親になったことで人間的に成長できた	61	74.4%	31	86.1%	0.157
	子育てが負担に感じられる	6	7.3%	7	19.4%	0.053
	育児に携わっていると世間から取り残される	19	23.2%	14	38.9%	0.080
	関心が子どもにばかり向いて視野が狭くなる	20	24.7%	13	36.1%	0.205
	母親であることで自分の行動が制限される	51	62.2%	20	55.6%	0.498

*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

表 3-10 要因ごとの比較④ 母親の就労の有無による較差

			就労なし (n=93)		就労あり (n=23)		有意確率
			実数	比率	実数	比率	
要因間の比較	母親の年齢階層	30歳代	59	62.8%	15	65.2%	0.827
	多摩区での生活歴	3年以上	52	55.3%	12	52.2%	0.786
	初産か経産か	2人以上	36	38.3%	1	4.3%	0.002**
	子育て BOOK 活用	活用あり	43	45.7%	12	52.2%	0.580
① 子育て情報源	テレビ・ラジオ		55	59.1%	15	65.2%	0.594
	新聞・雑誌・情報誌		85	91.4%	21	91.3%	0.989
	ミニコミ誌		21	22.6%	6	26.1%	0.722
	クチコミ		84	90.3%	22	95.7%	0.415
	学習会・講習会		16	17.2%	4	17.4%	0.983
② 子育てで困るこ と	夜泣きがひどい		5	5.4%	1	4.3%	0.842
	ぐずるとなだめにくい		15	16.1%	2	8.7%	0.367
	寝付きがよくない		26	28.0%	4	17.4%	0.300
	睡眠時間まちまち		13	14.0%	7	30.4%	0.061
	どう接すればよいのかわからない		4	4.3%	0	0.0%	0.311
	どう育てるかわからない		5	5.4%	1	4.3%	0.842
	感情的に接してしまう		15	16.1%	1	4.3%	0.142
	夫が子供をかまわない		5	5.4%	0	0.0%	0.266
	情報が多くて混乱する		18	19.4%	2	8.7%	0.226
	子どもと接する時間が取れない		7	7.5%	0	0.0%	0.175
③ 自己肯定感	自分をありのままに認めることができる		60	64.5%	15	65.2%	0.950
	生活がすごく楽しいと感じる		36	38.7%	10	43.5%	0.676
	充実感がある・精神的に楽である		37	39.8%	14	60.9%	0.068

	自分の好きなことがやれている	30	32.3%	15	65.2%	0.004**
	友達と真剣に話し合う	55	59.8%	18	78.3%	0.100
	ありのままの自分を出せる	47	50.5%	17	73.9%	0.044*
	自発的に友人に話しかけていく	56	60.2%	14	60.9%	0.954
④ 母 親 観	母親になったことで人間的に成長できた	72	77.4%	18	78.3%	0.931
	子育てが負担に感じられる	11	11.8%	2	8.7%	0.670
	育児に携わっていると世間から取り残される	28	30.1%	3	13.0%	0.098
	関心が子どもにばかり向いて視野が狭くなる	32	34.4%	0	0.0%	0.001***
	母親であることで自分の行動が制限される	58	62.4%	11	47.8%	0.203

*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

表 3-11 要因ごとの比較⑤ 子育て BOOK 活用の有無による較差

			活用なし (n=61)		活用あり (n=57)		有意確率
			実数	比率	実数	比率	
要因 間の 比較	多摩区での生活 歴	3年以上	41	66.1%	34	59.6%	0.464
	初産か経産か	2人以上	33	53.2%	33	57.9%	0.609
	母親の就労	就労あり	23	37.1%	14	24.6%	0.140
	子育て BOOK 活 用	活用あり	11	17.7%	12	21.8%	0.580
① 子 育 て 情 報 源	テレビ・ラジオ		32	52.5%	39	68.4%	0.077
	新聞・雑誌・情報誌		55	90.2%	52	91.2%	0.843
	ミニコミ誌		11	18.0%	16	28.1%	0.195
	クチコミ		59	96.7%	48	84.2%	0.020*
	学習会・講習会		9	14.8%	12	21.1%	0.371
② 子 育 て で 困 る こ と	夜泣きがひどい		5	8.2%	1	1.8%	0.111
	ぐずるとなだめにくい		8	13.1%	9	15.8%	0.679
	寝付きがよくない		14	23.0%	16	28.1%	0.523
	睡眠時間まちまち		13	21.3%	7	12.3%	0.191
	どう接すればよいのかわから ない		2	3.3%	2	3.5%	0.945
	どう育てるかわからない		3	4.9%	3	5.3%	0.932
	感情的に接してしまう		8	13.1%	8	14.0%	0.884
	夫が子供をかまわない		4	6.6%	1	1.8%	0.202
	情報が多くて混乱する		6	9.8%	16	28.1%	0.011*
③ 自 己 肯 定	自分をありのままに認めること ができる		35	57.4%	41	71.9%	0.099
	生活がすごく楽しいと感じ る		22	36.1%	26	45.6%	0.291
	充実感がある・精神的に楽で		27	44.3%	26	45.6%	0.883